

歴史まち歩き

芝居、見世物、遊郭・・・ 今も昔も庶民の憧れ、ごった煮の歓楽街

8

南寺町 西の大須

コース【大須観音境内▶大須観音境内】

大須は、大須観音(真福寺)を中心として発展してきたまちです。徳川家康は、清須越によって、城下町の南にあたる一帯に、多くの寺社を集めました。江戸時代には、歌舞伎、見世物、寄席などの興行が行われ、茶屋や屋台が建ち並び、多くの人で賑わいました。大須は、昔も今も、生活に密着し、娯楽をとどける庶民のまちなのです。

1 大須観音

もとは岐阜県羽島市にありましたが、名古屋城築城の際に現在地に移されました。寺号は「北野山真福寺宝生院」、大須観音と呼ばれ親しまれています。大須文庫には、現存する最古の写本「国史・古事記」をはじめ、15,000点の貴重な古典籍が所蔵されています。また、境内には「大正琴の発祥之地」と刻まれた石碑が建てられています。

2 大須演芸場

1965年に開場。何度も閉鎖の危機に直面しながら、約50年に渡って続き、「奇跡の寄席」とも呼ばれています。B&Bが初舞台を踏んだほか、若き日のピートたけしさんや明石屋さんまさんも出演しており、楽屋の化粧台の裏側には、「今日も客なし 明日は?」と書かれたさんまさんの落書きが残されているそう。

3 遊女が祀られたほころ

昔、このあたりに遊郭があり、故郷に帰ることなく病気で亡くなった遊女の身を哀れみ、土地の人たちが、小さな石の仏様を立てました。現在でも、この祠は地元の人たちの手によって守られています。

4 日出神社

清須越によって名古屋に移された神社のうち、愛宕社と神明社を明治42年に合祀したものです。本殿は、5世紀頃の前方後円墳(後円部)の上に建てられています。

5 阿弥陀寺

清須越の際に現在地に移されました。江戸時代に落語や講談が盛んに行われたことを記念して、昭和43年に「咄塚」が建立されました。

6 大光院

1603年、徳川家康の四男・松平忠吉によって建立され、清須越で大須に移されました。映画「のぼうの城」で知られる成田長親の菩提寺です。赤門通は、大光院の朱塗りの山門にちなんで命名されました。



7 紙張地蔵(陽秀院)

寛永初年(1624年)からこの地にあり、天保(1833~44年)のころから民間信仰が盛んになったといわれ、からだの悪いところに紙をはると利益があるとされています。(紙は2枚で10円)。お地蔵さまの本来のお姿はだれも見ることがないそう。

8 那古野古墳

6世紀頃に造られた大須古墳群のうちの1つで、直径22m、高さ3mの前方後円墳です(現在残されているのは、後円部のみ)。明治12年には、愛知県で初めての公園「浪越公演」として市民に開放されました。

9 富士浅間社

1495年、後土御門天皇の勅命により、富士山本宮浅間神社から分霊を勧請し、創建されました。現在の社殿は、初代尾張藩主・徳川義直の内室・高原院によって建てられたものです。

10 柳下水

明治の廃仏毀釈によって廃寺となった修験道の寺・清寿院の中門前にあった供水として使われていたもの。尾張名古屋三名水の1つとされ、将軍上洛の際の飲用水としても使われました。

16 山神社

名前のとおり、山の神が祀られた神社。丘の上に小さな祠が建てられています。江戸の昔より、この神社の木を伐るとたたりがあるとされ、朝日文左衛門の日記「鸚鵡籠中記」にも、日置村山の神として記されています。

15 鶯谷

鶯が鳴き、堀川の流を西南方に見下ろす景勝地として、かつて鶯谷と呼ばれていました。現在は高いビルが建ち並んでいますが、谷のようにくぼんだ地形が残されており、面影を偲ぶことができます。

14 名古屋スポーツセンター

昭和28年開業。「大須スケートリンク」の名で親しまれています。伊藤みどりさん、安藤美姫さん、浅田真央さん、村上佳菜子さんなど、多くのフィギュアスケーターを輩出したことで知られています。

13 七寺

735年、行基によって現在のあま市に創建されたと伝わり、清須越によって現在地に移されました。江戸時代には、尾張徳川家の祈願所として、8,211坪を有する大寺院でした。尾張藩主・朝日文左衛門は、芝居見物に大須を訪れた際、七寺の門前の茶屋で奈良茶を食べるのが何よりの楽しみだったそう。

12 仁王門通

大須観音の本殿と仁王門は、かつては東側を向いて建てられていました。仁王門通は大須観音の参道として賑わいました。

11 たんすのばあば

古くから伝わる筆筒の守り神。体にさわると一生着るものに困らないといわれています。